龍谷大学校友会
福岡県・北豊支部会報
－第９号－
2021（令和３）年３月発行

黎（れいめい）明

編集発行／北豊支部事務局
〒829-0102 福岡県築上郡築上町
築城717 金剛寺内
☎0930-52-1107 FAX0930-52-1103

新型コロナウイルス禍のもとで・・・

全国支部長会「オンライン会議」参加報告

北豊支部支部長　仁保一正（１９７４年・文卒）

昨年10月31日、地域、海外、職域の各支部長及び事務局長参加のもと、オンラインにて全国支部長会が行われました。

本来ならば9月に仙台で開催予定の「全国校友大会ｉｎ東北」にあわせて行われるはずの行事でしたが、新型コロナウイルス流行により校友大会が次年度延期となり、それに伴い支部長会も延期、またも感染防止のため、初めての試みとしてこのような形での開催となりました。

まず第１部は支部長・事務局長対象で、赤松徹眞校友会会長挨拶、ＶＴＲによる入澤崇学長挨拶、龍谷大学の現状や校友会本部からの報告等が行われました。続いては第２部として支部役員や一般会員も加わり、「ワークショップ・校友会の将来像を描く時間」と題して、校友会の強みや好きなところ、弱みや苦手なところ、その強みを伸ばし弱みを克服するためには、等々の課題でグループ討議が行われました。

その後、「ミニ講座～届けたい人に届ける情報発信について～ツイッターを使った情報発信の効果とやり方」という講義があり、午後5時前、4時間に及ぶ全プログラムが終了いたしました。

また本年度は例年11月の《龍谷祭》期間中に深草キャンパスで開催される〈ホームカミングデー〉もオンライン形式で、「龍谷賞贈呈式」「校友会賞贈呈式」の様子はユーチューブでのライブ配信となり、この時期開催予定だった各種校友会行事がことごとくオンラインでの開催となりました。

私たち〝ワープロ世代〟の高齢者にとっては対応できないことも多々あります。オンライン開催は、会場に集合しなくてもどこからでも参加できる、移動や宿泊などによる時間と費用が節約できるといったメリットはありますが、緊張感がなく、会議においては発言のタイミングが取れず発言しにくいといった現状がありました。

３年前、初めて参加した熊本での全国支部長会では、前北米開教総長の梅津廣道・北カルフォルニア支部長や元開教使の衣笠告也・鳥取県支部長など、旧来の知友との懐かしい出会いもあってその楽しさも感じることができましたが、今回のオンライン開催は致し方のないこととはいえ、何か寂しさを感じる全国支部長会でした。

次年度は改めて東北で開催予定とのこと。一刻も早く新型コロナウイルス問題が収束し、お互い顔を会わせての全国支部長会が、ぜひ実現することを期待したいと思います。

〈２０２１年度・北豊支部総会〉に関してのお知らせ

通常ならば、この欄にて標記の件に関し概略ご報告のうえ日程確保をお願いのところですが、新型コロナウイルスの収束には程遠く、大人数での懇親会等まだまだ困難な状況です。また役員会も行われず、しばらくは予定できそうにもありません。

恐らく２０２１年度も前年度同様の形になろうかと思えます。詳細は改めてご案内申し上げますが、諸事情ご賢察いただき、よろしくご対応のほどお願い申し上げます。　事務局

校友リレーエッセイ

非戦・平和の願いをもって

2004年・法学部卒
佐々木　允

龍谷大学には2000（平成12）年に入学しました。福岡の田川という田舎から京都への進学。大都会と大人数の学生という状況に、不安な気持ちのなか入学式に臨んだことを鮮明に覚えています。

入学ののち〈龍谷大学新聞社〉という学術文化局所属のサークルに入部しました。しかし、その時の新入部員は私一人しかいないという事態で存続が危ぶまれましたが、2回生の時の新入生勧誘を頑張り、15人の新入部員を得て廃部は免れました。そしてこのサークルの大先輩で、私が入学当時4回生だったのが今の私の妻です。なので、夫婦ともに龍谷大学出身ということになります。

大学新聞は月に1回発行、そのための毎週2回の会議に折々の取材、そして広告集めとても忙しいサークルでした。3回生の時には代表にも就任しましたが、この時の先輩や後輩とは、今でもリモートで交流するなど親しくしています。

学業では法学部政治学科で地方自治を学びました。入学した年は、その4月1日に『地方分権一括法』が施行された、〃地方分権元年〃ともいえる年でした。その後、いわゆる「平成の合併」や住民投票など、地方分権に関わる様々な動きがあった時でもありました。

私は、いずれ田川地域に帰り地方政治家として頑張ってみたいとの思いもあり、4年間、地方自治の研究をしっかりやろうと思っていました。そのためゼミは、地方自治を学べる、元・神奈川県逗子市長だった富野暉一郎先生の門を叩きました。先生はフィールドワークをとても大切にしており、ゼミでは多くの自治体に直接足を運び、市町村長や行政職員にふれあう機会を得ました。

研究を深めていくうちに、ゼミの枠を越えて、有志の学生と教員とで地方自治の動きをより学んでいこうということになり、学内に〈地域研究発展ゼミ〉という自主ゼミを立ち上げました（その時のメンバーは全員、公務員や公共分野で働いており、私自身も様々なご縁があって、現在、福岡県議会議員として地方自治に携わっています。また現在も関西圏の議員とともに龍谷大学内に〈政策議会研究所〉を立ち上げ、定期的に開かれる勉強会に、大学まで赴いて参加しています）。

学外では議員インターンシップを経験したのち、関西各地の議員と一緒に政治活動に没頭、ざっと数えるだけで24の選挙に携わりました。また4回生時には京都市長選挙に龍谷大学の広原盛明教授が立候補することになり、〃学生勝手連〃を組織し代表にも就任しました。応援する教授と一緒に大学前で演説会を開いたり、寒い中チラシ配りなどもしました。

当時の龍谷大学、特に法学部政治学科は地方分権・地方自治の大きな流れの中で新進気鋭の先生が多く登用され、活気にあふれていました。その動きが現在の政策学部につながっていると思います。

また、浄土真宗本願寺派は「非戦・平和こそ人類の歩むべき道」であると訴えてきた教団として、現在も平和に対する活動を続けてこられています。そういう思いがあるからこそでしょう。講義にて先生方は、憲法9条を護り、徹底した非戦・平和を目指すことを訴えておられました。

私もこの思いをかたちにするために、今後も憲法理念を守り生かすことを大切にする政治家として頑張っていこうと、決意を新たにするところです。

＊編集部註…2007年、当時、全国最年少市議会議員として25歳で田川市議会議員に当選。2015年に田川市選挙区より福岡県議会議員として選出され、現在に至る。

履かなくなった靴を〝素敵に手放し〟てみませんか

「手放す貢献プロジェクト」ご協力のお願い

《革靴をはいた猫》という、龍大・校友の立ち上げた靴屋さんがあります。このたび校友会本部事務局より、このお店の周知を図りその活動に協力してほしいとの依頼がありましたので、ここにご紹介のうえご協力のお願いを申し上げます。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

《革靴をはいた猫》は、龍谷大学校友会会員の魚見航大さん（２０１７年・政策学部卒）を中心に設立された、企業等への訪問などを行いながら靴磨き事業を展開する会社です。

彼らの活動の原点はその母校、龍大キャンパス内にある「カフェ樹林」での貴重な経験にあります。ここは就労継続支援Ｂ型事業所として障害者と学生が共に働く場でしたが、お互いに触れ合っていくなかで、障害を持ちながらも「実社会で活躍したい！」と強く願う若者が出てきました。

そんな彼らの熱い気持ちをどうすれば実現できるのだろうと、当時サポートしていた魚見さんら学生たちで話し合いが行われ、障害の有無に関わらず〈職人〉として腕を磨き一生追及していける仕事を探した結果、〝靴磨き〟にたどり着いたということです。そこでまず学生５名が大阪の靴磨き専門店で修行し、障害のある若者たちに技術を伝え全員で腕を磨き、２年間の修行のあと２０１７年３月に株式会社《革靴をはいた猫》が設立されました。社名は童話『長靴をはいた猫』から着想を得たということで、主人公の猫が長靴を与えられ、果敢に挑戦していったように、この名前には「靴磨きという仕事をもらい受け、その生き様や技術の高さで勇気や感動を与えていこう」という思いが込められています。

２０１８年２月には京都市役所のすぐ西側、御池通りに面したところに実店舗を構え、そこではカフェ樹林で出会った２名の障害ある若者が靴磨き職人（正社員）として働いていますが、以前とは見違えるような笑顔で接客や靴磨きに励む姿が多くのメディアで取り上げられ、「自分もあんな風に働きたい！」と関西一円から靴磨き職人を目指す若者たちが集ってきたそうです。そこで、魚見さんたちはさらなる支援と事業の拡大を目指し、次のステージとして〝靴修理〟にも挑戦することとなり、そのための資金をクラウドファンディングで調達して靴修理が事業化されていきました。

現在、その活動の一環として「手放す貢献プロジェクト～履かなくなった靴の素敵な手放し方～」という取り組みを進め、靴磨き・靴修理の修行用靴の募集が行われています。この冬には大丸デパート京都店で開催されたイベントで８００足を越える応募があり、４月には第２回目も行われますが、そんなイベントとは別に、継続的に修行用靴の募集を行っているとのこと。もし「大切にしていたから手放しにくいんだよね。でも履かないし…」「今まで手放せなかったけど、誰かの役に立つなら」といった靴をお持ちで、趣旨にご賛同いただける方がございましたら、どうぞご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

【郵送もしくは詳細お問い合わせ先】
〒６０４－０９４１
京都市中京区亀屋町３７０－１
サンルミ御池１階　「革靴をはいた猫」宛
☎０９０－８３８７－８１４３

＊原則として革を使用のものということで、スニーカーやサンダルは不可とのこと。また、送料は自己負担にてお願いします。

編集雑記

▶今年もどうせ全体での総会は中止で日時予約のお願いの必要もなく、別にに急がなくても、などと思っていたら年度末も末の末になっていました。▶長期間の自宅待機のお陰でいろいろと生活が改善できてよかったという人もいますが、私は逆にメリハリを失い、いよいよダラダラの生活でした。物事が＋と－、どちらにはたらくかは結局その人次第ということのようです。▶時間があったにも拘らず今回は制作に手間取りました。写真はやや若者に媚びたか!?とも思ったけどそれでも岡部氏40ン才ということで、改めて自分の年を思い知らされました。頑張れ、年寄り！〔記・O〕

龍谷写真館 in 北豊

・上下、岡部義法さん（１９９６年・文卒）提供。１回生時、龍祭の実行委員会・運営部のみんなと。上、左端が岡部さん。ちなみに４回生時には部長を務めたそうです。顔に書かれた“バカ”の文字がいかにも学生！

☆校友たちの青春

＊このたびは行事もなく写真がなくて困ってしまい、こんな企画を考えてみました。お願いするのもなかなか難しく、身近なところで済ませたりもしました。ご協力いただいた皆さんにはこの場をお借りし、改めて御礼申し上げます。有り難うございました。

・上、佐々木允（まこと）さん（２００４年・法卒）提供。サークルのみんなと鴨川の河川敷で撮ったもので、一番前が佐々木さん。詳細、Ｐ２をどうぞ。

・下、新会員の真田久遠さん（２０１７年・文卒）提供。左側一番奥が真田さんで卒業の日に友人と。やっぱり女子は華やかで（と書いたらセクハラで〈着物は〉だったらOKか!?）‥‥。

☆『革靴をはいた猫』たち

・右上、「革靴をはいた猫」のメンバー。『校友会報第85号（2017年 9月発行）』より転載。左端が代表の魚見航大さん。右、仕事に取り組むメンバーたち。詳細はＰ３をご覧ください。